阿Q並びに阿Q通信公司、タイヘイレコオドに個性あふれる年賀状を出して頂いた皆さん、ありがとうございました。本来なら阿Q、年賀(♡)

大公報

阿Q小組公認機関報
発行：阿Q通信公司
仙台市千代田町 11-23-102
☎022(234)8098〒980
郵便振替　仙台2-1181
編集人　樫村富士夫
壱玖八八年壱月拾伍日発行
第2巻　第11号　通巻19号
毎月1回1日発行予定
第3種郵便物未認可

阿Q初リサイタル

阿Q正伝も福音来来

十二月廿二日　仙台市民会館

新年明けまして御目出とう御座居ます。昨年中は並々ならぬ御贔屓(ひいき)を頂き、なかでも『MASAMUNE』全国発売並びに『阿Q正伝』開催に当たってはこの上ない御支援御協力有り難う御座居ました。本年も阿Q、奮起する所存で有りますので昨年同様宜しくお願い致します、鶴亀鶴亀。

というわけで阿Qだ。阿Q史上初の大ホール『阿Q正伝』は八百名に及ぶ参観を得て好評のうちに終了することができた。

どーせソレナリ……という日常に埋没した怠惰な予測のイヒョーをつきショウビジネスの都、米国はロスアンジェリースから招聘した日系二世の舞台演出家、ジャッキーF佐藤さん制作による人類の共存と平和をモチーフにした舞台には金や銀、石綿の紙吹雪が飛び交い、『岬マコさんのスパンコール衣装をイメージした』という七色に輝く特殊ビームが否がうえにも参観の少年少女を悩殺だ。

照れ屋さん阿Qの四人組も流石に挑発的なステージング。特にドクトル梅津氏の参加は阿Q世界の知られざる一面を披露させた。阿Qが日本のゲリー&ペースメーカーズとなるのを予感させる演奏だったと云って過言ではない。

当日の興奮は凄まじいもので終幕近くに舞台を弾け飛んだサイリュウムは『伊勢神宮とコロボックル』の論文を内閣調査室に依頼され執筆している阿Qのプロデューサー及川氏によると『鬼子母神様の御利益がある』らしく、参観者の間で壮絶な奪い合いとなった。

Nicioe da Buonici
TARACO

やはり、この二年間の阿Qを締め括る演奏のため、最終曲『I Believe My Babe なんて云えない』では感極まった人も多く、永年にわたり阿Qを見守ってきたマーチン高橋師も『光のページェントも目に染みる今宵かな』と詠み、アマゾン河上流の探検にも匹敵する阿Q『アジアの仲間たちツアー』に同行しあらゆる条件の下で阿QのステージをPAした佐藤郁夫さん(28)も『僕はタコのぬいぐるみを〜』とベルスタジオの社歌を口ずさみつつ目を潤ませていた。

青春は一度だけ

阿Qは首都へ

阿Qフリークの感動も一入(ひとしお)で、終演後のロビーでは東日本各地から集まったフリークスも紅潮した表情でワイワイ。アンコールで『阿Qの上京』がTARACOより発表され阿Qフリーク左派『ダイテツ奪回闘争』(DDT)

Nicioe da Buonici
DAITETU

は東日本包装に『大坂君行くな！』という緊急声明を発表しフリーク急進派を中心に混乱もみられたが、西大條文阿彌さんによる東チモールに伝わる『調停の踊り』が功を奏しロビーは平常を取り戻し、なごやかでムーディな雰囲気のうちに阿Q上京一路平安を祈願する千人針が挙行された。

終演後、控室に戻った阿Qの四人組はやり遂げた満足感と放心。阿Q、阿Qフリーク、そしてこの世に生を受けた全ての命にとって十二月二十二日はインメモリアル・デイ……一九八七年、阿Qという大気に係わった者だけが知っている。

新年好！春節(旧正月)もお祝いしよう

一月十五日　本当の正月

(♡)すべきなのですが、この『大公報』をもって年賀の挨拶にかえさせて頂きたい。前号が先月二十五日発行だったことを考えると敏速編集だ。

あの奥崎謙三のドキュメンタリー映画「ゆきゆきて神軍」が仙台でも上映される。４月20日〜22日にエルパーク仙台１４１の６Ｆギャラリーホールにて。14時と19時。前売券1200円。だまされたと思って観てみよう。好き嫌いは別にしてみんな、奥崎謙三という人物が気になってしまう魅惑の映画だ。

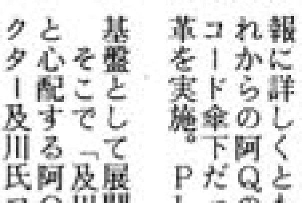
これからの阿Q新展開の中で、当然この『大公報』も阿Q秘密会議で取り上げられた。『こんなマイナーな新聞は勿論廃刊』というのが(◇)

PLATZ設立

新体制発足！阿Q機構刷新

キティより移転　自主自立の精神

PLATZ——この外国語は、キミがどんなに阿Q情報に詳しくとも初めて目にした単語だろう。これが、これからの阿Qの基盤となる新機構だ。これまでキティレコード傘下だった阿Qは更に魅惑的な展開のため阿Q改革を実施。PLATZが発足した。


PLATZについて語るマンスフィールド米大使

【東京発阿Q通信公司電】阿Qといえば秘密結社太平天国を組織し阿Q通信公司を自営するなどアヴァンギャルドな活動でツトに有名だが、このたび阿Qが更に阿Qらしく活動するためPLATZが生まれた。キティレコードより移転してのPLATZは従来の概念でいえばレコード会社だ。ピースケ氏やジェット博士が愛読している『ムー』などの出版社『学研』がエスタブしたのだが、単にレコード制作にとどまらない阿Q文化活動がPLATZを基盤として展開される。

そこで『及川様は……』と心配する阿Q担当ディレクター及川氏フリークも多かろう。また阿Q通信公司の存続も気になるところ。しかし大丈夫、安心してほしい。阿Q、阿Q通信公司そして及川氏と阿Qフリークは切っても切れない赤い糸で縛られている近松門左衛門のワールドだ。今まで通りのスタッフがPLATZで阿Q仕事する。阿Q通信公司も東京へ移転だ。

すでにこれからの阿Q活動に着々と準備が始まり、阿Q工作の特殊任務に従事するスペシャリストが極秘裏に都内某所で結集している。東アジア全域を網羅した展開、そして話題のLPリリースなど春には新阿Qの全貌を紹介できよう。

阿Q通信公司東京移転反対
善良な都民が反対同盟結成

ペレストロイカだ

そのような阿Q改革が進むなかで渦中の人、阿Q四人組は——と気になるところだが、上京を前にして今は稽古に精進する毎日だ。彼らの心境は三頁の懇談記事を参照していただきたいが、上京にあたり最も懸念されているのが阿Q通信公司で飼われている子猫二匹『てんや』と『わんや』の存在だ。

Fujio KASHIMURA
てんや（上）とわんや（下）

現在の阿Q通信公司は理解ある大屋様に恵まれ『てんや』と『わんや』は幸せに暮らしているが、近代化著しい首都東京で猫の飼える住居があるか、そして東京は人間の心がすさんでいるというが猫も同じこと、それを考えると練習にも気が入らず、食欲も不振の阿Qだ……おっと、暗くなってしまった——閑話休題。

このように新年を迎え阿Qの状況は日一日と変化しているのだが、熱心な阿Qフリークは複雑な心境と推測する。二月末とか三月上旬と噂されている阿Q上京がいつなのか？今日現在まだ明確な情報は入手していないが、ひとつだけ確かなことは、これから上京までに阿Qらしい企画をいくつか催したい。

①まず阿Q手帳88年版を太平天国国民に配付するまでは仙台を離れるわけにはいかない。

②そして『最近、太平天国民の特権がない』とお嘆きのキミに朗報——太平天国国民しか入場できない特別演奏会の開催は大切だ。

③更に『出発式』はユースホステルに泊まって旅する若者にとって重要な儀式。

阿Qらしく仙台を離れる。

これから数ケ月、阿Q情報に敏感でいてほしい。

阿Qの心
タイヘイレコオド
仙台ビューロー　BELL STUDIO　☎022(264)8168
東京ビューロー　阿Q通信公司　☎03(449)9711
ベルスタジオにタイヘイレコオドコーナー新設。ソノシートの他、阿Qグッズも販売。
ソノシートは阿Q三部作、80's EXPRESS(各300円)、2枚より通販可。
新独活美かつハイパーな新人演奏家を募る！問い合わせはベルスタジオまで。

Kari KAYABA
TARACO

(◇)大方の予想。しかし存続が決定。しかもこの体裁のまま。絶対に『よくあるバンド新聞』にしないよう編集部も頑張る所存だ。

阿Q通信公司は現在、東京移転を前に大規模な書類、グッズ整理を敢行中だ。いろいろな阿Q関係品が余っているので、今度の何かの機会にそれらを放出する。阿Qハイキングのバトミントン大会で入賞して商品をまだもらってない諸君も安心して待っていてほしい。阿Qは絶対にウソはつかない。

NHK紅白歌合戦の視聴率がついに50%。当然だ。紅白は「ケバい」ものだ。三波春夫がゴージャスな着物で、小柳ルミ子が金ラメの(♤)

上京記念

特集　阿Q物語

マンチェスター編

列車は海沿いの町を離れて、断崖のふところへとわけいる。このあたりはリヤスで、台地に海が食い込むようで、人は海と山にはさまれた狭い土地に張りついていた。

この町に生まれた者は皆大人になると町の製鉄所に就職した。よそからも沢山の男たちがこの町の製鉄所にやってきた。製鉄所そのものが町なのだ。役所も学校も、製鉄所の土地にあった。そして製鉄所のすみに小さな商店街と昔からの漁港があるだけの町。あちこちから集まった人々が無表情にならぶ社宅に暮らしていた。

ヨシノリが子供だった頃父親は製鉄所の港に立つたびに同じセリフを云ってきかせた——「この海のむこうにハワイという島があるんだ」。その島に、日系移民の子として生まれた父は鉄鉱景気に沸く、この国のこの町に職を求めた。

この話をする父はいつも酒臭かった。この町の、浜千鳥という地酒を飲んでいた。もともと米のとれない土地だから酒はまずく、へんに甘ったるかった。しかしこの町の男たちは浜千鳥だった。

車窓の外は宵だった。後ろを振りかえると闇の中に製鉄所の巨大な溶鉱炉の頭とツノのような煙突だけが海をバックに、見えた。思わず笑ってしまった。生まれてから、この町を離れる今日の今日まで、結局、製鉄所だけだった。

ヨシノリは声変わりした頃から、この町を出たいと思い始めた。何か職を捜してこの町を一刻も早く飛び出したかった。愚連隊の一羽となってこの町をオートでとばしていた時も、ただ、町を出ることばかり考えていた。

そのためには、ボクサーかボードビリアンになる以外、道はなかった。ヨシノリは町のただ一軒の楽器屋で、ギターを買った。はしだのりひこや、ビリーバンバンも使っていた、白いギター。学校を抜け出して、夜、愚連隊の連中が集う時間まで、ヨシノリは製鉄所の港でギターを爪弾いた。

列車は甲子川の渓流に沿って更に山を分け入る。もう潮の香も微塵もしない。年老いた行商の老婆が二人コクリコクリと居眠る。列車が駅に止まり、赤ら顔の男のイビキが車内に響き渡った。年老いていた。

あの町も、もう年老いていた。日本で唯一、鉄鉱石が産出されたあの町は、日本のマンチェスターと持てはやされ、朝鮮戦争に始まる経済復興の寵児だった。鉄鉱石の産出に陰りがみえはじめても、オーストラリアやカナダから届く鉄鉱石はさらにこの町に景気を運んだ。

しかし、野良犬が増え始めた、とヨシノリは子供ながらに感じていた。ペルシアの湾岸の戦争が遠い日本のこの町の野良犬を増やしたのだ。小学校ではプレハブ校舎まであったのが、ヨシノリの友達も一人二人と町を離れていった。飲み屋街の灯もこころなしか薄暗くなり、製鉄所の社宅地域はひとけもなく、砂っ風が舞い始めた。ギターを置いてドラムのスティックを握った。

父親が、ハワイ出身ではなく、常磐道の小名浜生まれだとわかったのも、総理大臣が逮捕された頃だった。小名浜が、湯本の常磐ハワイアンセンターの近くなだけだった。父親は、ヨシノリがボードビリアンを目指していることに何も云わなかった。ただ、やるんだったら日本一のロッカーになれ、それまでは死んでやらねぇぞ、と、昔のように酒臭い息を吹きかけた。

気がついたら、列車はすでに終着駅の構内に走り込んでいた。

グッバイ、釜石……

ヨシノリは軽い記憶喪失で向かいのホームの列車に飛び乗った。

◇　◇

ヨシノリの働くスーパーは、駅裏の高層マンションの一階。朝六時に出勤して市場から届いた魚をおろしてゆく。板場は冬でも火の気がない。湯も使えない。寒気と冷水が打たれた中で十時の開店までに、八間のショウケースにラップした切り身を隙間なく並べなければならない。ラジオが流れているのも耳障りなほど、毎日、時間がレース。

手のかかる魚が多いと、陳列が開店後におす。この日も、南シナ海産の冷凍シシャモの解凍に手間取り、客の間をぬってワゴンを押し陳列を続けていた。

生まれ育った、あの大きな製鉄所と小さな漁港の町を離れればあの潮臭さ、魚臭さを鼻にすることもない——と考えていたアテが外れた自分がおかしかった。この、高層マンションの林立する賑やかな町に来ても海はヨシノリから離れようとしなかった。

『このアジは、台湾産の冷凍モノだねぇ……』

陳列を続けるヨシノリの横で、急にセリフを吐いた若者がいた。呆気にとられるヨシノリを無視して彼は『これを刺身にしちゃぁいけねぇよ。せいぜい叩きで勘弁してくれねぇと……』とのたまい『こうやってね蛍光灯から外して、切り身の肌の光り具合みてやるとイキがわかるって筋合いなわけよぉ』

確かにその通りだった。台湾産の冷凍アジで、けして刺身にする品ではない。

ヨシノリは唖然として、若者の名前を尋ねた。『俺か、俺はTARACO』ってヤボな野郎よぉ。あんた冷凍モン、お客様に出して納得してないだろう？』

『確かに、あんたの正真正銘の刺身や、あんたの本物の叩き、人様に御披露したいだろ、俺と一緒にやらねぇかい』と若者はヨシノリに伊勢辰のスティックを渡した。

二年後の冬、ヨシノリは熱くて汗をかいていた。広いホールでライトがギラギラと灼けつく。一曲叩くごとにジワッと汗が流れた。

無心の脳裏に、製鉄所の錆びた鉄クズや、冷凍モノのドロンとした寂しげな瞳のオカヒジキが浮かんだ。

（マンチェスター編・完）

(♤)レオタードで、南伸介が紅白の袴羽織で、それが紅白だ。それなのにクラシックやシャンソンいれて「文化的」にするなんて……失敗だ。

阿Q秘密結社太平天国第１期国民募集締切間近！——阿Q特製音盤三枚組、阿Q歌留多、阿Q暦、阿Q双六等阿Q良品満載之「阿Q大作戦小物揃」贈呈。国民希望者是一千円郵便振替仙台二—一一八一阿Q通信公司迄。現在之国民数三百余名。皆品行方正之青少年。我希望汝登録阿Q秘密結社太平天国国民。

阿Q通信公司とパラダイスプロとのサミット会議は情報漏洩を防ぐため仙台近郊の某健康センターで、おサイケなアロハ姿で実施されて(♧)

阿Qペレストロイカにともない事業拡張！

タイヘイレコオドは永久普遍のレーベル
庶民的文化活動ソノシート制作を続行！

本部東京移転♪パラダイスプロと業務提携

阿Q三枚組ソノシートの制作で発足したタイヘイレコオドも満一才。一年間で阿Q三枚と80'S EXPRESSのし、これからも続々と庶民文化の源泉ソノシートを制作していく——という。

阿Q上京でタイヘイレコオドも組織改革だ。この改革は阿Qペレストロイカが冗談ぢゃないことを物語っている。

まず、タイヘイレコオド本部は東京に移転。従来通り阿Q通信公司に併設される。そこで、阿Qが稽古に勤しんできた仙台FORUSのベルスタジオのパラダイスプロと業務提携、これからは東京本部と仙台ビューローの二極運営となることで明るい将来である。

80's EXPRESSの青年達

この提携の電撃発表はレコード業界に大きな衝撃を与え、『ミノルフォン設立以来の快挙』と噂されている。仙台や東北各地の少年少女はベルスタジオを拠点にタイヘイレコオドを応援してほしい。

この提携によってタイヘイレコオドはこれまでにもまして積極的な制作が可能となるが、先日の秘密工作委員会で決定したことは、ソノシートという媒体を大切にしてゆきたい、ということだ。

最近はインディーズでもCDを発表するなど近年の革新にはめざましいものがみられるが、そのような時代だからこそ、いまではソノシートを知らない新人類もいるが昔は雑誌や絵本の最高級付録として君臨していたソノシートを大切にしたい、と思う。

あの、ペラペラとした一枚から聞こえてくる音は最近のデジタルサウンドに比べ柔らかで温かい。もちろん阿Qさんだってやっぱり LP、CDがでてもソノシート制作は続行する。

とくにソノシートを制作してみたいと考えているバンド諸君はタイヘイレコオドに出頭してほしい。80'sのリーダー坂本君は『それまでずっとチビで悩んでいたのに、タイヘイレコオドでソノシートを作ったら、たった二ケ月で身長が五センチも伸びました』と喜びを語ってくれた。キミたちもソノシートを発表して人気者になろう！

阿Q秘蔵写真

阿Q上京を記念して今回だけ特別公開。85年夏、カシムラの故郷水戸の偕楽園でのタラコとダイテツだ。

Fujio KASHIMURA
水戸好文亭の雪隠にて

阿QスケヂューR

一月九日現在、阿Qはライヴ等演奏の予定は一切ない。PLATZ中央政治局阿Q工作会議で阿Qの将来にわたった秘密プロジェクトが決定するまで辛抱である。昨年末の仙台市民会館『阿Q正伝』でやれうるコトはすべてやった阿Qは、きっとまた諸君を『アッ……』と思わせる登場をするぞ。

しかし、阿Qはこのまま上京などできない。そこで提案されたのが『太平天国国民限定演奏会』だ。阿Qフリークの中でも特に熱心に阿Qを支持支援してくれた太平天国国民への大感謝法会だ。

これは、単にライヴと考えないでいてほしい。もしかするとフルーツバスケットがあるかもしれない。覚悟していよう。

太平天国国民限定演奏会

日時　阿Q上京直前（決定次第ハガキ連絡）
場所　FORUSモーニングムーンスタジオ
入場資格　阿Q秘密結社太平天国国民のみ
特典　阿Q手帳などグッズ配付など

編集手帖

本号はニュースが多かった。だから編集は早い。昨年は秋から二号しか四頁編集号が発行できなかったし今年はしばらく演奏がないので『大公報』はコンスタントに発行する。

ところで、阿Q通信公司、タイヘイレコオド、大公報編集部の阿Q三大機構も東京へ移転する。PLATZと合同庁舎して阿Q特殊工作に従事することとなろう。詳しくは次号で紹介だ。

最後になってしまったが大公報がコンサート毎に、しかも無料配付を続行できたのは好意的な印刷所のおかげだ。

白髪のオジサンが『若い人たちが真面目にやってんだから協力してやんねーとな』とか云って朝の七時に持ち込んだ原稿を夕方、コンサート直前までに印刷してくれたりした。ちょうど一年前、阿Q大作戦セットも徹夜の印刷をしてもらい一月十日の配給日に間に合った。御厚情に感謝いたします。

(♧)いた。しかし太平天国国民はどこにでもいるもので、ここにも働いていたのだ。阿Q四人組のアロハ姿はなかなか貴重なデータのはずだ。

大公報次号では、読者から要望の強かったダイアナ鈴木さんに「直撃インタヴュー」だ。ダイアナさんが実在の人物だということを信じない若者が多いが、ダイアナさんは実際に福生でダンスを教えている６８才の踊り子。昭和14年、藤原義江の歌劇「カルメン」成功もダイアナさんの指導あってのものだ。